

多様化する家族と子ども(2) ○本橋 令子\* 久世 妙子\*\* 中村 喜美子\*

— 児童の家族とのかかわりに関する自由記述回答の分析 —

【目的】児童は家族との情緒的なつながりを基盤として、両親、きょうだい、祖父母の意識や行動を模倣し、同一視する。また、しつけなどの社会化への働きかけを受容して成長する。児童の心情面の発達的变化は自由記述形式の回答から読みとることができる。ここでは「児童の家族認識の調査」のうち家族に関する自由記述形式の回答を中心に報告する。

【方法】対象：名古屋市及びその近郊都市刈谷市の小学生2、4、6年生、それぞれ267、245名。調査時期：1995年2月、10月。調査内容：①家族を表すことばを提示して、自由連想法により記述させた。②父母に対する要望、③家族以外で世話になった人について、それぞれ自由記述法で回答を求めた。

【結果】①「お父さん」「お母さん」ということばからイメージする内容は「やさしい」「こわい」といった個人的特性が多く、次いで、「遊んでくれる」「料理を作ってくれる」といった児童のかかわりから記述していた。祖父母、赤ちゃんについては、全体に無記入が多い。祖父母との関係は、「遊び」と「お金、物をもらう」の二つの形を通して結ばれていた。赤ちゃんについては、家庭に乳幼児のいる児童といない児童の間に差がみられた。前者では、「ほっぺをひっぱる」「ことばがしゃべれない」「お母さんがとられる」など具体的な記述が多い。②父母に対する要望では、父親には一緒に何かして欲しいといった接触を求めようとするものが多かった。それに対し母親には児童とのかかわりのあり方に対する実際的回答が多かった。父母に対して「要望なし」「無回答」も多かった。③家族以外で世話になった人についての回答には地域差が大きくみられた。